

実感がもてない景気回復
個人消費の動向如何?

1月度の月次景況調査によると売上増加と報告している業種は機械金属加工業と電気機器製造業及び自動車小売業のみで、この他の業種は全て売上増加より売上減少と回答する企業が上回っている。

売上増加業種の中でも、個人の消費に直接関係しているのは自動車のみ、しかし自動車業界は高齢化社会突入に伴い今後の市場縮小を懸念しており、楽観視はできない。

今回の景気拡大(回復)については、一部の大企業のみで、地方の中小企業者にとってはまったく実感のわからないものであると言われている。さらに原油価格高騰に伴う燃料等の価格上昇、社会保険料・住民税の値上げなど、個人の投資や消費を鈍らせる材料が多い中、今後の個人消費の動向によつては中小企業の経営にあたる影響も大きいことから、注意が必要である。

山梨県がまとめた統計情報「やまなし」によると、1世帯当たり1カ月間の平均収支甲府市・勤労者世帯・平成18年10月現在、は平成17年度の同月比112%であるが、支出は139%と拡大し、しかし支出の内訳をみると、地代家賃・光熱費及び交通・通信費が昨年ものより最高で200%と大幅に増えており、逆に住居における設備修繕や維持管理にかかる費用は昨年の33%程度にすぎず、被服・教養・娯楽についての支出も昨年同期を下回る水準となっている。

業界から一言

製造業
水産加工／新規開拓の婚

データから見た

業界の動き

山梨県中小企業団体中央会

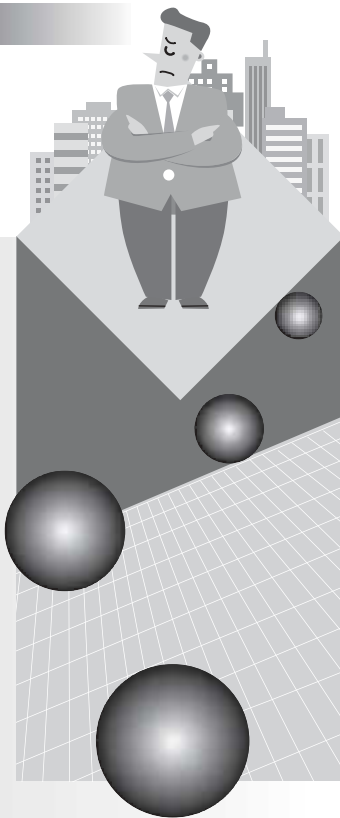
情報連絡員報告(平成19年1月分)

平成19年1月の月次景況調査(情報連絡員報告)の結果、「製造業」のDI値は、売上高 - 35ポイント(対前月 - 10)、収益状況 - 25ポイント(対前月 + 5)、景況感 - 30ポイント(対前月同)となっており、売上高については過去一年間の中で最も悪い数値。

「非製造業」のDI値については、売上高 - 43ポイント(対前月 20)、収益状況 - 46(対前月 16)、景況感 - 53(対前月 37)と多少回復を見せた先月のDI値と比べ全ての項目において大幅に悪化している。

今回のDI値悪化の要因としては、「暖冬による季節商品売上げの伸び悩み(衣料・織物・ガソリン・輸送関連)と、「原油価格の高止まり、原材料価格高の影響により製品価格が上昇し消費が鈍化(機械器具・和紙・貴金属)したことが大きく影響しているものと、各情報連絡員の報告から読みとることができる。

「いざなぎ景気」(57ヶ月間)を超えた今回の景気拡大と言われているが、中小企業者にとっては景気好調という実感がなく、先行きにも不安をかかえている現実が示された結果となっている。



礼向け食材が好調であるが、原材料が高騰しており、採算面で厳しい状況である。

繊維工業／暖冬の影響が大きく、売上は大幅に落ちている。

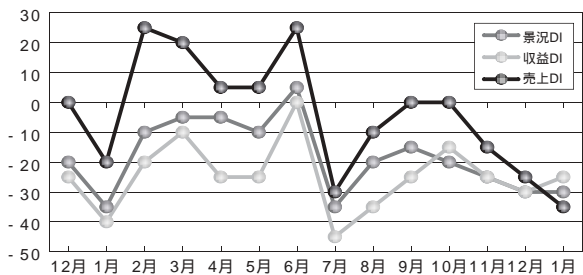
家具製造業／地方景気は確実に悪化している気がする。

紙製造業／重油価格は対象下がったものの、主原料であるパルプは価格上昇している。製品価格の上昇に伴い、売上高が減少している。

骨材製造／公共工事の減少が大きく影響し、売上が減少、さらに生産に係る費用が上昇していることから、収益が悪化している。

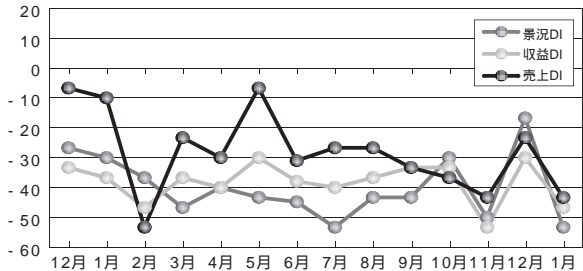
貴金属製造／地金の価格

製造業 (DI値の推移)



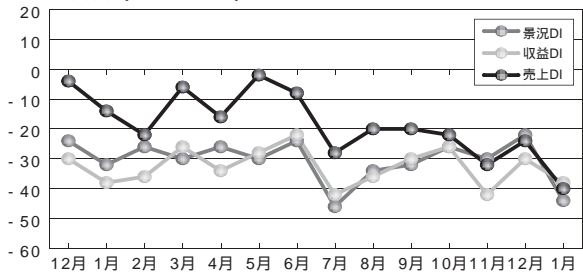
が上昇傾向にあり、消費者ニーズも多様化していることから、受注数量は小ロットであり、業界

非製造業 (DI値の推移)



全体が低調なムード。今後も厳しい状況が続く非製造業

合計 (DI値の推移)



衣料卸売業／暖冬の影響が大きく、衣糧品全体で取引量が減少している。春物の生産も始まっているが、生産量も押さえ気味で、商品のバリエーションも若干乏しいため、発注もひかえめな小売店が目立つ。

貴金属卸売業／クリスマス商戦以降販売が低調、高額品よりも安価なシルバー製品に動きがある。水産物小売業／小売店の品揃えが少ないこと、また相次ぐスーパーの出店により消費者の小売店がなれば進んでいる。また、マグロの捕獲制限によつて仕入価格が高騰し、それを販売価格に転嫁できないことから経営は厳しいものとなっている。

電機器具小売業／新年を迎え、大幅に市場が減少している。春の新商品に向けて、様子見の消費者が多いと思われる。

石油小売業／ガソリンの需要は低調、また灯油も暖冬の影響から2割程度販売量が落ち込んでいる。